

1. 調査件数

- 大船渡市 5地域の仮設住宅 20件
(山馬越、鳥沢、後の入、後の入北、大立)
陸前高田市 4地域の仮設住宅 8件
(中沢、長洞、佐野、米崎中学)
戸建住宅(住田町、陸前高田市) 2件

2 調査概要

(1) 疾患の状況

- アレルギー等疾患を持つ患者家族数 22件(アレルギー疾患 19件、その他3件)
疾患無し(結露、カビなどが心配) 8件
*震災後、仮設住宅に移転後症状が悪化した経験がある家庭は 7件(23%)であった。

(2) 住まいの状況

- ほとんどの家で隙間と結露とカビの発生が見られた。
また、冬にじゅうたん(ホットカーペット)などを敷いたままになっている家でカビが発生したとの訴えがあった。(現況確認が出来なかった)
- 建築の問題と思われるケースが3件あった。
排水管からの漏水と思われるカビなどが発生 2件
断熱材(天井)の手抜き(3か所で断熱材が無い部分がある。1㎡以上)
*その他、外断熱が不備(行われていない)ためその部分の結露等が著しい住宅が少なからずあった。
*どの家にも共通していることは、隙間が至る所にあり、虫などの家屋内の侵入などに悩まされている家が少なくない。
- 家族数が多く(5人から6人)、3Kの仮設住宅では家具が多くなり、アレルギー、呼吸器疾患の患者にとって過酷な環境条件となっている)
これら住まいの環境の悪化に加えて様々な要因も重なってか症状の悪化を訴えた患者が少なくない。(結露やカビでも悩まされている)

(3) 住まい方の改善について

- 部屋数に比べ、家族数が少ない家庭では結露、カビ対策にある程度の改善が可能であることが確認できた。
灯油のストーブを出来るだけ使用しない。灯油ストーブを使う際には、台所の換気扇やエアコン電気コタツとの併用によって結露を少なくすることが出来る。
(但し、果敢相による呼吸器疾患の悪化に要注意)
風呂の換気対策は風呂の出入りロドアを閉めて換気扇を動かす指導を徹底すること。
その場合、隣接するトイレの換気扇は必要時のみ稼働するよう併せて指導が必要。
- 鉄骨の柱には断熱施工がしてないのでどの家庭でも結露が認められ、この対策が不可欠であり、技術的な検討が必要と思われた。
- 鉄板の壁材に断熱材が使用されていないところが多く見受けられた。
これらについて、寒冷地仕様も含めた技術的な検討が不可欠。(寒さと結露)
- 仮設住宅ごとに建設業者が違う事もあり、建築仕様が異なっている点が見受けられた。
建築仕様を出来るだけ細かに自治体が発注できるようにすることが欠かせない。
- 建築上の不備などが散見され、必要な点検についての検討が不可欠と思われた。